

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「つながれ 和泉っ子」 ～人と社会と未来の自分～
(知) 学ぶ楽しさを味わい、粘り強く学び自ら解決する子を育てます。
(徳) 思いやりをもち、互いに認め合う、心豊かな子を育てます。
(体) 心と体を鍛え、自他の命や体を大切にすることを育てます。
(公) 地域に学び、地域に親しみ、地域を大切にすることを育てます。
(開) 社会への視野を広げ、進んで働きかけようとする子を育てます。

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

＜コミュニケーション能力＞
＜持続可能な社会の創造に貢献する力＞

具体化した資質・能力

言葉による伝え合い 自己理解・他者理解
地域を愛する力 夢や目標をもち生き方を追及する姿勢

中期取組目標

○学校、家庭、地域がしっかりと手を結び、児童が安全、安心に過ごせる学校生活を過ごせる学校にします。
・「主体的・対話的で深い学び」の具現化を通して、基礎基本の定着を図ると共に、児童が学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、自己の思いを豊かに表現できる子を育てます。
・道徳の学習や、まちと協働した学習に取り組み、豊かな心を育みます。
・体育的行事に取り組みと共に、保健学習、食育を充実させることを通して健康的な身体を作ります。
・学校・家庭・地域との「つながり」を大切にして、地域の中に生きる心豊かな子を育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①主体的で対話的な深い学びにつながる探究的な授業改善に努め、学習の基礎・基本の定着を図る。 ②資質・能力をテーマにした研修を重ね、本校の具体的な資質・能力系統表の作成や研究テーマを見直す。 ③タブレットを活用した授業改善に取り組み、思考力や情報活用能力の向上に努める。
担当	重点・AB研

学力向上に関わる本校の状況

令和7年度横浜市学力学習状況調査等からの実態から、全体として学習意識や生活意識は平均以上であり、授業中の学習態度もよく、意欲的に学習に取り組む児童が多い。
学力は、現6年5年3年では市平均を上回り、4年は平均を下回る。
こうした実態を受け、引き続き基礎学力の定着を目指し、学年に応じた指導の充実を図り、高い意識を持ち続ける本校児童のよさを継続していけるよう指導に努めていく必要性がある。

今年度の目標

どの子も「わかる」喜びを実感できる授業を保障し、基礎・基本の定着を図る。
課題解決学習を通して、考える力・表現力の育成を目指していく。

目標を実現するための具体的行動プラン

①どの授業でも課題解決のための対話的な活動と自己内省する振り返りの時間を設定し日々の授業改善を図る。
②目指す資質・能力の一つにある「課題発見能力」に注目して授業で効果的に活用できる系統表を作成する。また、探求的な学びと問題解決的な授業改善のために、生活・総合的な学習の時間を中心とした研修会を開く。
③ICTの効果的な活用の仕方を日々の学年研やブロック研の中で話題にし、授業改善を図る。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①児童一人ひとりが安心して豊かに過ごせるように、道徳を要として教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進する。 ②中学校ブロック共通の取組の一つにある挨拶活動を児童会活動で取り組む。 ③異学年とのペア交流活動から、豊かな心を育む。
担当	児童支援・人権・道徳

豊かな心に関わる本校の状況

素直で子どもらしく人と関わりをもてる児童が多い。
学力学習状況調査の結果からも、学習に対しても学校生活に対しても、前向きな気持ちを持ち、行動している様子が分かる。
昨年度同様、学校保健委員会や児童会活動などで生活習慣を高める取組を続けている。
児童支援専任を中心として様々な立場の教職員がチームとなり児童の心に寄り添い一人ひとりの思いを大切に教育活動を進めてきた。
挨拶においては、友達、先生、地域で関わる人など気持ち良い挨拶ができる児童も多いが、個人差も課題である。
安定した日常を送っている児童が多い中、自己肯定感が低く、自分の考えや気持ちを十分表現できない児童もいる。一人ひとりが自分の良さを分かり、友達や周囲の人との関わりに心地よさを感じながら、自己有用感を感じられる経験を積むことが求められる。

今年度の目標

道徳教育や人権教育を重視し、他者との関わりを大切にし、積極的に自分を表現できる児童を育てる。子ども一人ひとりの思いや立場に寄り添い、安心・安全に学校生活が送れるように努める。

目標を実現するための具体的行動プラン

①道徳教育のかなめとなる「道徳科」の授業を通して、子どもたちが道徳的な見方や考え方、感じ方を多様に広げ、自己を深く見つめ、よりよく生きようとする道徳的実践力を身につけられるようにする。そのために、学校全体の道徳教育と各学級の道徳の時間との関連を図り、豊かな体験の伴う指導を実践する。
②今年度も運営委員会を中心とした挨拶活動を行い全校の取組と広げる。
③日々の学習活動とペア学年活動をつなげる授業実践に取り組むことと、子どもたちの主体的な交流を促し豊かな心を育てる。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①運動の楽しさを感じる体育の授業改善と休み時間の外遊びの推進に取り組む。 ②食をテーマにした授業では、日々の生活につながる授業展開の工夫をする。また、食育の一斉授業研究会では、子どもが主体的に学ぶ授業作りに取り組む。
担当	体育・保健・食育

健やかな体に関わる本校の状況

令和7年度横浜市体力運動能力調査の結果から、体力運動能力は横浜市平均以上であり、生活実態調査もおおむね平均以上であることがわかる。
また、前年度と比較すると、体力運動能力も上昇してきた様子が伺える。
本校は横浜市の中でも自然豊かな立地にあり、学区の周囲には県や市の運動公園や和泉遊水地など様々な運動を楽しめる施設が存在する。そうした環境もあり、放課後や習い事などで体を動かす運動に親しむ児童も多い。
また、学校の休み時間や放課後の校庭開放、放課後キッズクラブ等でも外遊びを楽しむ児童が多く見られる。おおむね進んで運動する児童が多い実態にはあるが、そうでない児童も一定数ありえるため、より多くの児童が運動に親しむ環境づくりを続けていくことが必要である。

今年度の目標

体を動かすことの喜びや楽しさを知り、生活の中に運動を取り入れようとする。
規則正しい生活習慣を身につけようとする。目標に向かって根気強く取り組もうとする。
積極的に友達とふれ合い、互いに伸びていこうとする。

目標を実現するための具体的行動プラン

①体育科では、各学年の運動の系統性を意識したカリキュラムを実践し、児童が運動の楽しさや喜びを実感し、運動の日常化につなげられるよう体育学習の充実を図る。
②学年の発達段階に応じた食育の充実が図れるよう特別活動、保健学習、給食等において計画的に指導していけるようにする。また、児童が手洗いなど規則正しい生活習慣を身につけ、運動に親しんでいけるよう学校保健委員会の活動を充実させる。特に高学年では、児童が教師や校医、保護者と共に課題解決に向けて話し合う活動を設ける。